

当科における歯周外科療法患者の実態の臨床的考察

東 富恵, 竹本 俊伸, 谷川 昌生
岡本 莫

Clinical consideration for actual conditions after periodontal surgery

Tomie Higashi, Toshinobu Takemoto, Masao Tanikawa and Hiroshi Okamoto

(平成7年8月24日受付)

緒 言

辺縁性歯周疾患の治療法の一つに歯周外科療法があり、患者は主治医による十分なモチベーションおよび初期治療を経て、歯周外科処置に対する理解と同意をして手術を受けている。しかしながら、処置後に不快症状が完全に消失するとは限らず、また歯肉形態の変化により、口腔清掃方法が変化することも多い。

初診時における歯周疾患患者質問調査表をもとにした主訴項目、口腔衛生観念、習慣および嗜好品などの分析をした報告はあるが、初診時と外科処置後のこれらの変化に関して調査した報告はほとんどみられない。そこで今回、著者らは、歯周外科療法を行った患者の初診時と手術後の、自覚症状の出現頻度や改善度を比較し、口腔清掃方法の変化および口腔清掃に対する意識の変化を調査し、今後の治療に役立てるために、アンケート調査を行い、臨床的考察を加えたので、その概要をここに報告する。

調査対象および方法

調査対象

第二保存科において歯周外科手術を受けた患者で手術後6カ月以上～1年未満と1年以上経過した106人を調査対象とした。男女別被験者数を図1に、被験者の年代別分布を図2に示す。

調査方法

調査方法はアンケート形式で、初診時の問診表を参

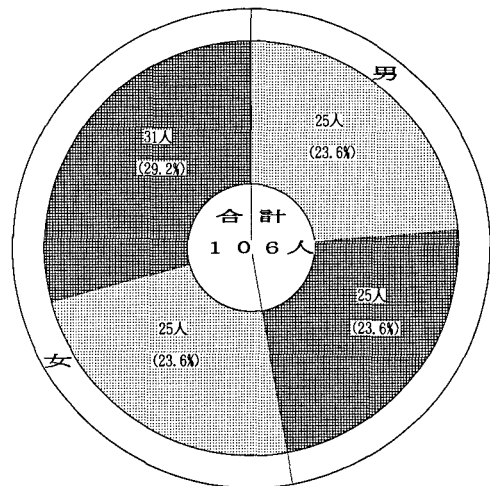


図1 被験者数

考にして、自覚症状に関する設問を12項目、手術前後の口腔内の状態の変化に関する設問を8項目、口腔清掃に関する設問を7項目設け、外来受診時に記入させた(表1)。

結 果

1. 自覚症状の出現頻度

歯肉の搔痒感、歯肉出血、口腔内の粘稠感、口臭、歯肉腫脹、歯肉からの排膿、歯の動揺、咀嚼困難、歯列不正、冷水痛などの自覚症状は、初診時と比較して、手術後にはいずれもその出現頻度が減少していたが、食片圧入のみは初診時の91.2%の出現頻度よりもさらに高い95.3%を示した(図3)。

(人)

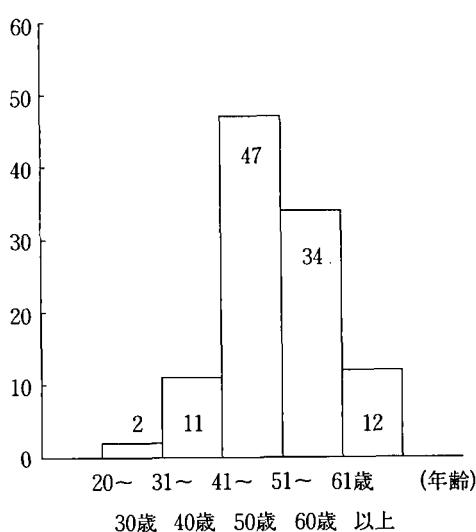


図2 被験者の年代別分布

2. 手術前後の自覚症状の改善度

口腔内の粘稠感, 歯肉腫脹, 歯肉出血, 冷水痛, 口臭, 歯の動揺は初診時と比較して50%以上の頻度で減少したが, 歯の磨きにくさは不変と増加を合わせて61.4%を示し, 食片圧入は増加が53.8%であった(図4)。

3. 口腔清掃

一日のブラッシング回数は, 初診時が 2.41 ± 0.16 , 手術後が 2.87 ± 0.09 回であり, 49%の被験者が一日3回ブラッシングしていた(図5)。歯磨きの一回当たりの所要時間は初診時が平均 3.38 ± 0.49 , 手術後が 8.10 ± 0.90 であり, 特に手術後に10分から10分以上磨く被験者が35.8%を占めていた(図6)。歯ブラシの使用期間はいずれも1カ月が最も多く, 初診時が平均 3.59 ± 0.72 , 手術後が 1.43 ± 0.11 カ月であった(図7)。ブラッシング方法では, 38.1%が手術前後で変化したと答えており, 方法の変化は無いが補助的清掃

表1 第二保存科問診表

1, 歯ぐきがむずむずしたりしますか	はい	いいえ
2, 歯ブラシを使ったり林檎を食べるとき血が出たりしますか	はい	いいえ
3, 朝, 口が粘ったり, 妙な味がしたりしますか	はい	いいえ
4, 人から口が臭いと言われたことがありますか	はい	いいえ
5, 自分で口が臭いと思いますか	はい	いいえ
6, 歯ぐきがはれることがありますか	はい	いいえ
7, 歯ぐきから膿が出ることがありますか	はい	いいえ
8, 最近歯が動くようになったと思いますか	はい	いいえ
9, 最近かたいものがかみにくくなったと思いますか	はい	いいえ
10, 歯の間に食べ物がはさまったりしますか	はい	いいえ
11, 歯並びが悪くなったと思いますか	はい	いいえ
12, 冷たいものが歯にしみますか	はい	いいえ

手術前と現在とでお口の中の状態はどのように変化しましたか

- 1, 口の中の粘った感じが (減った 変らない 増した)
- 2, 歯ぐきのはれが (減った 変らない 増した)
- 3, 歯ぐきからの出血が (減った 変らない 増した)
- 4, 冷たいものがしみるところが (減った 変らない 増した)
- 5, 歯磨きが (難しくなった 変らない やりやすくなった)
- 6, 口の臭みが (減った 変らない 増した わからない)
- 7, 歯の間に食物が (はさまりやすくなった 変らない はさまりにくくなった)
- 8, 歯の動きが (減った 変らない 増した)

歯ブラシと歯磨きについて

- 1, 歯ブラシの硬さ (硬い 軟らかい 普通)
- 2, 1日の使用回数 _____回
- 3, 1回の歯磨き時間 _____分
- 4, 1本のおよさの使用期間 _____カ月
- 5, 歯磨きのやり方は手術後に (変った 変らない)
- 6, 磨き方はどんな方法ですか _____法 補助清掃法_____
- 7, 歯磨きが難しい部位はどこですか _____

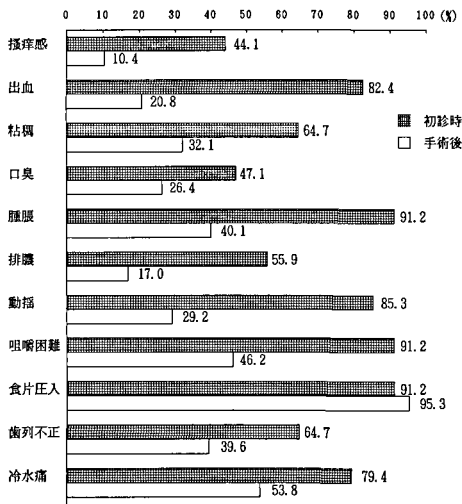


図3 自覚症状の出現頻度

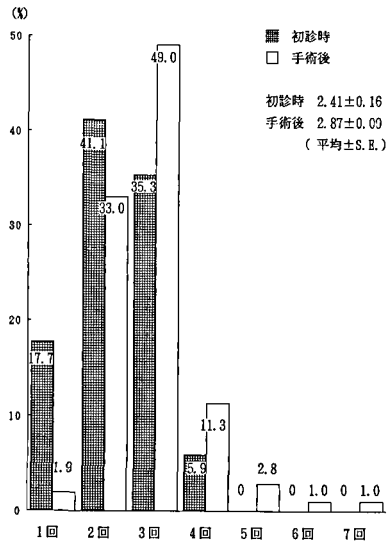


図5 ブラッシング回数

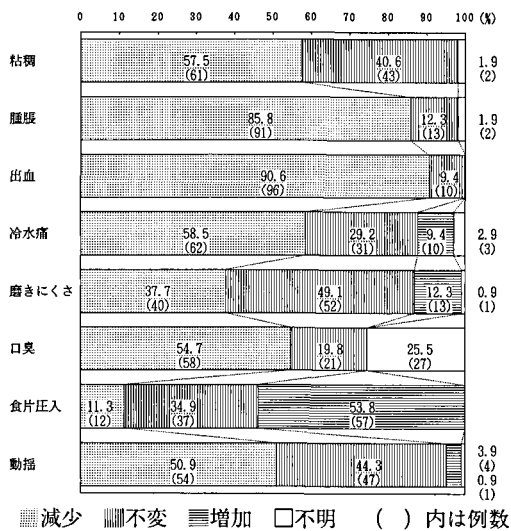


図4 手術前後の自覚症状の改善度

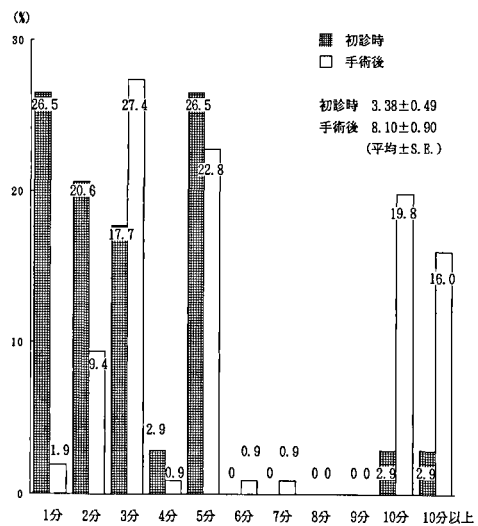


図6 歯磨きの1回当りの所要時間

法が加わったものもあった(図8)。

考 察

歯周疾患患者の主訴項目として、初診時では神田ら¹⁾は、最も高い分布状態を示したのは、歯の動揺で55.5%、次いで咀嚼障害、出血、口臭、腫脹であったと述べており、上野ら²⁾は食片圧入が80%と最も多かったと示しており、浦ら³⁾も食片圧入を挙げている。また金山らは⁴⁾食片圧入を最高に出血、腫脹、咀嚼障害、歯列不正の順であったと述べている。今回の調査では、歯周外科処置を対象とした患者ではあるが、初診時の主訴項目で最も高かったのは歯肉腫脹と

咀嚼困難および食片圧入の91.2%であり、次いで歯の動揺の85.3%、歯肉出血の82.4%、であった。但し、主訴と年齢との関係で、新谷ら⁵⁾は低、中年層では歯肉出血が、30歳以降では歯の動揺が多いと述べている。今回の調査では30から60歳以上が98.1%を占めていたことを考慮にいれなければならない。

歯周外科処置後には、初診時の主訴11項目のうち10項目の出現頻度が減少していたが、食片圧入のみは、初診時と同様に高い頻度を示しており、手術前後の自覚症状の改善度で、手術後に自覚症状が増加したものが53.8%もあった。これは歯周外科処置後に、初診時

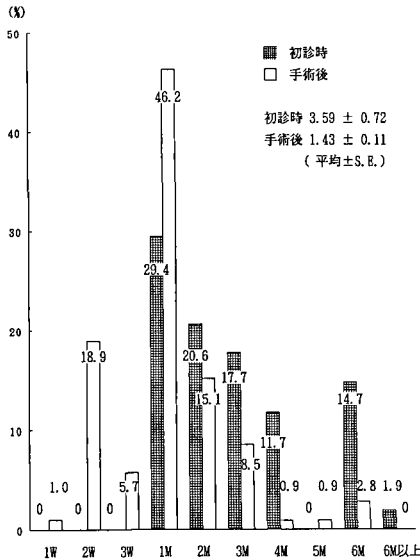


図7 歯ブラシの使用期間

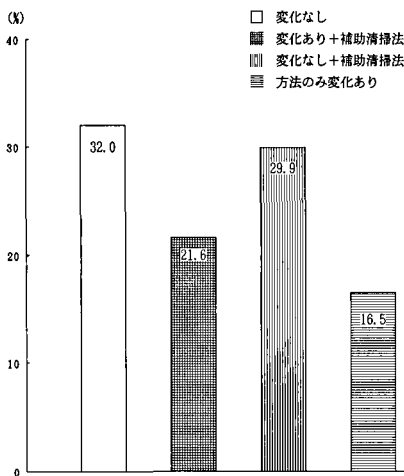


図8 ブラッシング方法の変化

より拡大した歯間空隙を埋める手段がないために、水平方向からの食片圧入を防ぐことができないためとされる。

ブラッシング回数に関しては、初診時では一日2回、次いで3回、1回の順であり、神田ら¹⁾、金山ら⁴⁾や厚生省の歯科疾患実態調査報告⁶⁾よりも、手術後には3回の頻度が高い傾向を示した。ブラッシング回数に関しては、新谷ら⁵⁾は女性では回数が多い程、疾患が進行している割合が多くなる傾向が認められると述べており、今回の調査対象が歯周外科処置を受けた患者を対象としたことから、疾患の進行している割

合が高い患者が多く含まれていた可能性が高く、同様の理由でブラッシング回数やや高かったことが考えられる。但し、ブラッシング回数に関しては、一日3回の方が、初診時35.3%から手術後49.0%に増加していたが、術者が期待するほどは増加していなかった。しかし、ブラッシングの一回当たりの所要時間は初診時平均が3.38分に対して、手術後が8.10分と増加しており、10分以上磨く人が35.8%いることがわかった。歯ブラシの使用期間としては、初診時、手術後ともに1カ月が最も多く、これは神田らの報告¹⁾と一致していた。

総 括

歯周外科療法を行った患者106人の、初診時と手術後の自覚症状の出現頻度や改善度、口腔清掃に対する意識や方法の変化を、アンケート調査により比較し、以下の結果を得た。

1. 主訴項目のうち、初診時で自覚症状の出現頻度が最も高かったのは、歯肉腫脹、咀嚼困難、食片圧入であり、手術後では食片圧入であった。
2. 手術前後で自覚症状がかなり改善されたのは、歯肉出血90.6%と歯肉腫脹85.8%であり、かなり増加したのは食片圧入53.8%であった。
3. ブラッシング回数は初診時が2.41回、手術後が2.27回で、あまり増加していなかった。しかし、ブラッシングの一回当たりの平均所要時間は、初診時で3.38分、手術後で8.10分であり、手術後では35.8%の人が一回10分以上磨いていることがわかった。

文 献

- 1) 神田隆行, 大森みさき, 長谷川明: 歯周疾患 (慢性辺縁性歯周炎) 患者の初診時診査項目に関する検討—5年後の推移—. 日歯周誌 35, 145-156, 1993.
- 2) 上野益卓, 岡部秋彦, 玉井憲二, 佐藤昌司, 三上格, 河野昭彦, 深井浩一, 高橋克弥, 大滝晃一, 長谷川明: 歯周疾患 (慢性辺縁性歯周炎) 患者の初診時診査項目に関する検討 第一報 歯周疾患患者質問調査表について. 日歯周誌 27, 618-634, 1985.
- 3) 浦浩二郎, 永松 敬, 國松和司, 岡本行人, 清水満廣, 小鷲悠典, 加藤伊八: 長崎県小離島の口腔疾患に関する疫学的研究—問診表による歯周疾患に関する調査結果—. 日歯周誌 26, 757-766, 1984.
- 4) 金山奎二, 伊藤茂樹, 呉 中興, 北原郷子, 小沢嘉彦, 中山雅弘, 坂本 浩, 太田紀雄: 歯周病患者統計的観察 第5報 初診時における質問表について. 日歯周誌 29, 1170-1180, 1987.
- 5) 新谷史子, 中嶋美紀子, 塩野宗則, 大場浩二, 新

- 井 高, 中村治郎: 歯周疾患患者の問診表の統計的観察. 日歯周誌 24, 165-175, 1982.
- 6) 厚生省健康政策局歯科衛生課編: 平成 5 年歯科疾患実態調査報告—厚生省健康政策局調査—. 口腔保健協会, 東京, 1995.